

【アンジェイ・ワイダ 略歴】

1926年3月6日 軍人の父、学校教員の母のもとポーランド東部のスヴァウキで生まれる。ポーランド軍大尉だった父は対独戦中にカティンの森事件に巻き込まれて亡くなる。

1942年（16歳） 第二次世界大戦中に対独レジスタンス運動に参加。

1944年（18歳） 浮世絵をはじめとした日本美術を見て感銘を受け、芸術家を目指す。

1946年（20歳） クラクフ美術大学に入学する。その後進路を変え、ウッチ映画大学に進学。1953年に同校を終了した。

1954年（28歳） 『世代』にて映画監督デビュー。

1956年（30歳） 『地下水道』を製作。翌1957年に第10回カンヌ国際映画祭で審査員特別賞を受賞。

1958年（32歳） 『灰とダイヤモンド』を製作。翌1959年、第20回ヴェネツィア国際映画祭で国際映画批評家連盟賞を受賞。『世代』『地下水道』『灰とダイヤモンド』の三部作は、ワルシャワ蜂起時のレジスタンスや、戦後共産化したポーランド社会における末路を描いており、「抵抗三部作」として知られている。以後、当時の映画界を席卷した「ポーランド派」の代表的存在となる。

1968年（42歳） 『帽子いっぱいの雨』で舞台演出家としてデビュー。

1971年（45歳） 前年に製作した『白樺の林』で、第7回モスクワ国際映画祭で監督賞を受賞。

1975年（49歳） 『約束の土地』を発表し、第9回モスクワ国際映画祭で金賞を受賞。

1977年（51歳） 『大理石の男』を発表。ポーランドでは上映禁止処分を受けたが、翌1978年の第31回カンヌ国際映画祭で国際映画批評家連盟賞を受賞した。

1978年（52歳） ポーランド映画人協会会長を1983年までつとめる。

1981年（55歳）1980年に起きたグダニスク造船所ストライキと「連帯」労組誕生へと連なる『大理石の男』の続編『鉄の男』を描き、カンヌ国際映画祭パルム・ドールを受賞。しかし、その反体制的な活動が原因となり、戒厳令布告によってポーランド映画人協会長の座を追われ、フランスをはじめとした海外での映画製作を余儀なくされる。

1986年（60歳）『愛の記録』でポーランド映画界に復帰。

1987年（61歳）京都賞（思想・芸術部門）を受賞。受賞賞金4,500万円を建設基金として、多額の寄付などをもとに1994年に日本美術芸術センターがクラクフに設立された。

1989年（63歳）映画委員会委員となる。また、1991年までポーランド共和国上院議員となる。

1992年（66歳）『鷲の指輪』を製作し、再びワルシャワ蜂起を問いただす。

1996年（70歳）高松宮殿下記念世界文化賞受賞。

2000年（74歳）世界中の人々に歴史・民主主義・自由について芸術家としての視点を示した功績により、アカデミー賞特別名誉賞を受賞する。

2002年（76歳）アンジェイ・ワイダ映画監督熟練学校を創立。

2004年（78歳）日本美術技術センターに付属する日本語学校の建設がJR総連、JR東労組が建設資金を提供して完成となる。

2007年（81歳）ベルリン国際映画祭において金熊名誉賞を受賞。
『カティンの森事件』をテーマにした新作の制作を開始する。翌2008年の第80回アカデミー賞で外国語映画賞にノミネートされた。

2009年（83歳）『菖蒲』が第59回ベルリン国際映画祭でアルフレッド・バウアー賞を受賞。

2010年（84歳）ポーランドを訪問中のロシアのメドベージェフ大統領から友好勲章を授与された。

2013年（87歳）『ワルサ連帯の男』を発表した。

2016年10月9日 肺不全により逝去。享年90歳。